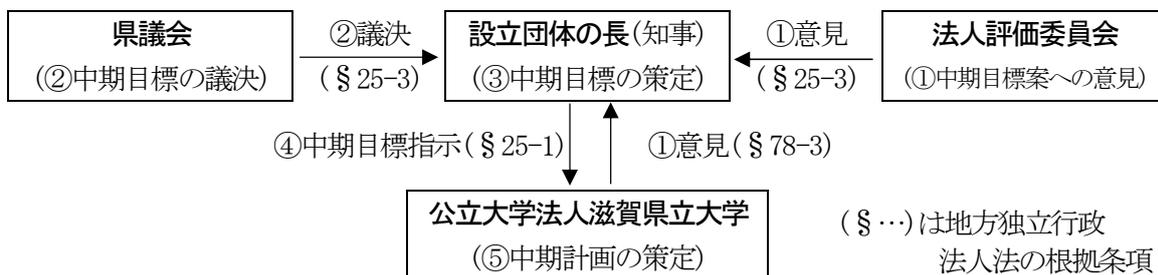


公立大学法人滋賀県立大学第4期中期目標（素案）について

滋賀県立大学（以下「県立大学」という。）は、平成7年4月に開学、平成18年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、知事が策定した中期目標に基づき中期計画や年度計画を策定し、大学法人運営を行っている。

第3期中期目標期間（平成30年度から令和5年度）が終了することから、第3期中期目標期間中の取組状況等を踏まえ、第4期中期目標（令和6年度から令和11年度）を県議会の議決を経て策定する。

1 中期目標策定の流れ



2 第4期中期目標策定にあたっての基本的な考え方

- 県立大学のこれまでの実績のほか、第3期中期目標・計画の進行状況や「滋賀県基本構想」等を踏まえつつ、社会環境等の変化に応じた新たな取組の必要性等を検討する。
- 県立高等専門学校に関しては設置準備段階までの内容とし、高等専門学校設置後の具体的な取組の明記は、開設時に中期目標を変更して対応する。

3 第3期中期目標・計画の進行状況（令和4年9月定例会議で報告）

滋賀県公立大学法人評価委員会においては、第3期中期計画の進行状況は「達成状況が概ね良好となる見込みである」と判断されている。

4 県立大学の実績等および期待する役割等

県立大学の実績等

- 環境科学部・工学部・人間文化学部・人間看護学部の4学部・13学科を擁する総合大学
- 「環境」と「人間」をキーワードに、琵琶湖等をフィールドにした教育・研究の推進
- 「近江楽座」など学生による地域活動等、地域と連携した教育・研究活動の推進
- 国際化の推進（第2期）、ブランド力の向上（第3期）に注力

県立大学に期待する役割等

- 産業構造や生活様式の変化を踏まえた社会から求められる人材に応じた学びの提供
- 社会人を含む幅広い学生等を受け入れ
- SDGs・MLGs視点による地域活性化の推進等
- 修学環境等の時代に適応した刷新
- 高等専門学校設置に向けた準備等を推進
- 学内の知的・人的・物的資源等を活用し、自律的な業務運営を持続するための改革

5 これまでの経過および今後の予定

令和5年	2月	法人評価委員会（中期目標（骨子案）に対する意見聴取）
	2月定例会議	常任委員会（中期目標（骨子案）の報告）
	6月	常任委員会（今後の予定について）
		法人評価委員会（中期目標（素案）に対する意見聴取）
	<u>6月定例会議</u>	<u>常任委員会（中期目標（素案）の報告）</u>
	7月～8月	法人評価委員会（中期目標（案）に対する意見聴取）
	9月定例会議	常任委員会（中期目標（案）の審議）
		県議会（中期目標の議決）
	10月	中期目標の指示（滋賀県 → 県立大学）

公立大学法人滋賀県立大学 第4期中期目標（素案）の概要

基本姿勢

「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、持続可能な社会づくりに貢献できるよう、時代の変化を踏まえ「**学生や地域にとって魅力のある高等教育機関**」を目指す。

基本的な取組

- 社会的課題をとらえ、持続可能な社会づくりをリードする学びの提供
- 地域教育プログラム等を通じた地域に貢献できる人材の育成
- 産学官の連携による実践的な社会人教育の展開や地域課題の解決
- 教育DX等による学生の修学環境の充実
- 県立高等専門学校の設置に向けた取組
- 組織運営の改善や経営効率化による自律的な業務運営の推進

- ★ 01 教育研究組織のあり方の検討等
(学部・学科再編など組織のあり方検討等)
- ◎ 02 教養教育等の充実
(教養教育の充実、情報教育の強化等)
- 03 地域に貢献できる人材の育成
(地域教育プログラム等の推進)
- 04 大学院教育の充実
(実践的な能力育成)
- ◎ 05 効果的な入学者選抜等の実施
(意識・意欲の高い学生受入)
- 06 教育DXの推進と教育能力の向上
(授業等でのICT環境の活用推進等)
- ★ 07 教学マネジメント体制の強化
(教育の質の保証・向上)
- 08 国際交流等の推進
(国際感覚の養成)
- 09 学生への支援体制の充実
(学修支援・生活支援の充実)
- 10 就職・キャリア形成支援の推進
(県内企業等への就職促進)

教育 きょういく

研究 けんきゅう

地域 連携 ちいざれんけい

- 01 特色ある研究の推進と研究水準の向上
(地域ひと・モノ・未来情報センター等)
- 02 研究成果の還元
(自治体等と連携した地域課題の解決等)
- ◎ 03 研究実施体制の強化
(若手・女性研究者等の育成、研究倫理の徹底)

- 01 産学官連携の強化
(共同研究や寄附講座の推進等)
- ◎ 02 学生による地域活動の活性化
(「近江楽座」等の情報発信、OB・OG連携)
- ◎ 03 地域づくりやSDGs等の推進
- ◎ 04 社会人教育の充実
(リカレント教育・リスキリング制度の展開)

高専 こうせん

法人 経営 ほうじんけいえい

- ★ 01 多様な学びにつながるカリキュラムの検討等
- ★ 02 教育環境や施設等の整備の推進
(社会人教育や地域教育活動の場の検討)
- ★ 03 積極的な情報発信等
(幅広い人材獲得、ねらいや学びの特色を発信)
- ★ 04 産業界や地域との連携等の検討

業務運営 の改善

財務

ステークホル ダーとの共創

自己評価等

- ★ 01 複数高等教育機関の設置者として必要となる組織体制の整備
(高専設置に向けた法人組織の見直し)
- 02 働き方改革とダイバーシティの推進
- 03 教職員の評価・能力向上
- 04 財政基盤の強化
- 05 施設設備等の整備・活用
- 06 強みを活かした広報・情報発信
- 07 大学間連携の推進
- 08 自己点検・評価の実施等
- 09 学内外の知見やデータ等の活用 etc...

★ … 新規
◎ … 拡充

公立大学法人滋賀県立大学 第4期中期目標（素案）

はじめに

滋賀県立大学（以下「県立大学」という。）は、平成7年（1995年）の開学以来、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「人が育つ大学」として「知と実践力」を備えた地域に貢献できる人材の育成に取り組んできた。さらに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学として、地域と連携した教育・研究活動の展開において、フィールドワークなど実践的な学びにも注力してきた。

一方で、今後、若年人口が急速に減少するとともに、デジタル技術の革新、国際情勢の変化、コロナ禍の影響等により、産業構造や生活様式が大きく変化し、社会が求める人材が多様化していく中で、社会的課題をとらえ、持続可能な社会づくりをリードする学びの提供や、社会人を含む幅広い学生等を受け入れなど、地域に貢献できる人材の育成・輩出を強化していく必要がある。

また、SDGsの推進など滋賀県や市町の課題解決への取組や、時代に適応した修学環境整備、自律的かつ持続可能な経営基盤の強化にも取り組むことが求められる。

さらには、第4期中期目標期間中には、県立大学の開学30周年を迎えるほか、滋賀県立高等専門学校（以下「県立高等専門学校」という。）の開設も予定されており、この大きな節目を一つの契機として、県立大学が県立高等専門学校とともに、さらなる飛躍へと向かうことを期待されている。

こうした役割を果たしていくためには、社会環境等の大きな変化を踏まえ、学びの充実をはじめとした改革に取り組み、学生や地域から求められる高等教育機関となることを目指し、滋賀県は次の点を基本に第4期中期目標を定める。

【基本姿勢】

「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、持続可能な社会づくりに貢献できるよう、時代の変化を踏まえ「学生や地域にとって魅力のある高等教育機関」を目指す。

【基本的な取組】

- 社会的課題をとらえ、持続可能な社会づくりをリードする学びの提供
- 地域教育プログラム等を通じた地域に貢献できる人材の育成
- 産学官の連携による実践的な社会人教育の展開や地域課題の解決
- 教育DX等による学生の修学環境の充実
- 県立高等専門学校の設置に向けた取組
- 組織運営の改善や経営効率化による自律的な業務運営の推進

第1 中期目標の期間および教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

令和6年（2024年）4月1日から令和12年（2030年）3月31日まで

2 教育研究上の基本組織

(1) 県立大学

学 部	環境科学部 工学部 人間文化学部 人間看護学部
研究科	環境科学研究科 工学研究科 人間文化科学研究科 人間看護学研究科

第2 県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育研究組織のあり方の検討等

持続可能な社会づくり等の観点から、これからの時代に必要な力を身につける学びを提供できるよう、多様な学部・研究科を活かした文理横断的なカリキュラム編成や学部・学科の再編、入学定員など教育研究組織のあり方を検討する。

(2) 教養教育等の充実

多様化する価値観に対応できるよう、文理横断の幅広い教養教育を充実するとともに、ICT・データ活用等の情報教育を強化するなど、教育プログラムを拡充する。

(3) 地域に貢献できる人材の育成

地域教育プログラムや学生主体の地域活動である「近江楽座」の取組を推進し、地域資源の発掘や地域課題の解決能力を育成する。

(4) 大学院教育の充実

研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。

(5) 効果的な入学者選抜等の実施

受験生等に対して効果的な情報発信を図るとともに、能力を多面的・総合的に評価できる入学者選抜を実施し、目的意識や学習意欲の高い学生の受入れを促進する。

(6) 教育DXの推進と教育能力の向上

教育DXにより学生が能動的に学べる仕組みを整え、授業等におけるICT環境の活用を推進するとともに、FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を通じて教員の教育能力の向上を図る。

(7) 教学マネジメント体制の強化

教育の質の保証・向上のための教学マネジメント体制を構築し、学修者本位の観点による組織的なチェック体制を強化する。

- (8) 国際交流等の推進
学生の海外派遣や留学生の受入れを推進するとともに、ICT環境等も積極的に活用しながら国際交流等を図り、国際感覚を持った人材を養成する。
- (9) 学生への支援体制の充実
多様性をもつ個々の学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、社会環境等の変化を踏まえ、学修支援、生活支援体制を充実する。
- (10) 就職・キャリア形成支援の推進
学生の目指す進路の実現に向けたキャリア形成支援に早期から取り組むとともに、県内企業等への関心を高めるなど、就職促進につながる取組を推進する。

2 研究に関する目標

- (1) 特色ある研究の推進と研究水準の向上
地域ひと・モノ・未来情報研究センターを中心に学部・学科間の連携を推進し、県立大学の強みや特色を活かした研究に取り組むとともに、研究水準の向上を図る。
- (2) 研究成果の還元
地域社会の課題や要請に応える研究を展開し、自治体等と連携した地域活性化や地域課題の解決を推進するなど、研究成果の社会への還元を図る。
- (3) 研究実施体制の強化
研究者の多様性を高めるため、若手・女性研究者等の育成を図るとともに、研究倫理の徹底など、適正な研究活動に向けた体制を充実する。

3 地域連携に関する目標

- (1) 産学官連携の強化
産業界、他大学、自治体等との連携を強化し、共同研究や寄附講座の開講等を推進するとともに、地域の産業界等をリードしながら、地域経済・社会を支えるイノベーションの創出を目指す。
- (2) 学生による地域活動の活性化
「近江楽座」等に関する情報発信を強化し、OB・OGとの連携を図ることなどで、学生による地域活動を活性化する。
- (3) 地域づくりやSDGs等の推進
地域づくりや地域課題解決の中核となる人材の育成を図るとともに、SDGsやMLGsに関わる取組を推進する。
- (4) 社会人教育の充実
リカレント教育を充実し、企業等と連携したリスクリング制度を展開するなど、社会人の多様なニーズに対応した教育機会を提供する。

第3 県立高等専門学校への設置に向けた目標

- (1) 多様な学びにつながるカリキュラムの検討等
滋賀発で次代の社会を支える高等専門人材の育成に向け、情報技術を基盤とした専門分野の多様な学びにつなげ、これからの滋賀や社会を支える価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む力を育む柔軟なカリキュラム編成を検討し、必要な教職員を確保する。
- (2) 教育環境や施設等の整備の推進

様々な学修形態やダイバーシティに対応できる教育環境のほか、リスキリングなどの社会人教育や地域教育活動の場としても活用できる施設等の整備や活用方策を検討する。

(3) 積極的な情報発信等

技術者育成・交流のハブとして機能するよう、また、県内外から多くの子どもたちに進路として選択してもらえるよう、早い段階から設置のねらいや学びの特色等の積極的な情報発信等を行う。

(4) 産業界や地域との連携等の検討

産業界等との議論を進め、設立運営にあたっての支援、地域の活性化、新たな産業の創出につながる連携など、「共創」の仕組みを検討する。

第4 法人経営に関する目標

1 業務運営の改善に関する目標

(1) 複数高等教育機関の設置者として必要となる組織体制の整備

県立高等専門学校への設置に向け、法人組織の見直しを図るとともに、教職協働のもと、県立大学と県立高等専門学校を効果的・効率的に運営できる組織体制を整備する。

(2) 働き方改革とダイバーシティの推進

働き方改革やハラスメント防止に取り組み、教職員が働きやすい環境を整備するとともに、ダイバーシティの観点から、男女共同参画やワークライフバランス等を推進する。

(3) 教職員の評価・能力向上

教職員の実績と能力を評価し、公正かつ適正な処遇を行うとともに、計画的な採用や人材育成により能力向上を図る。

2 財務に関する目標

(1) 財政基盤の強化

外部研究資金や寄附金等を積極的かつ安定的に獲得するとともに、収支バランスの見直しを図り、将来にわたって持続可能な財政基盤を強化する。

(2) 施設設備等の整備・活用

教育研究備品やネットワーク環境の更新等を計画的に行い、学生等の修学・研究環境を充実するとともに、施設等の有効活用を図りつつ、長寿命化やユニバーサルデザイン化、環境負荷の低減を推進する。

3 ステークホルダーとの共創に関する目標

(1) 強みを活かした広報・情報発信

強みや特色などを活かした訴求力の高い広報活動を展開するとともに、ステークホルダー等に対して適時適切な情報発信を行う。

(2) 大学間連携の推進

大学間連携を推進し、県内の多彩な大学等の強みを共有しながら、人的・物的資源を有効活用できる仕組みを検討する。

4 自己評価等に関する目標

(1) 自己点検・評価の実施等

自己点検・評価を着実に実施し、指標等を用いて中期計画の進行状況を可視化するとともに、認証評価等の結果も含め、業務運営等の改善に活用する。

(2) 学内外の知見やデータ等の活用

学内外の知見やデータ等を積極的に活用し、効果的・戦略的な法人経営を推進する。

5 その他の業務運営に関する目標

(1) 法令遵守に基づく業務運営の推進

教職員のコンプライアンスや人権意識の徹底を図るとともに、研究不正の防止など、法令遵守に基づく業務運営を推進する。

(2) 安全管理体制等の強化

安全管理や情報セキュリティ対策の充実を図るとともに、大規模災害や新興感染症の発生等に備えた危機管理体制を強化する。

(3) 監査機能の実効性確保

監事、会計監査人、内部監査組織の連携を強化し、監査機能の実効性の確保を図る。

第3期中期目標等との比較一覧

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期(素案)の違いなど ※は第4期骨子案との違い
I 大学の教育研究等の質向上に関する目標	I 大学の教育研究等に関する目標	I 県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標	
1 教育に関する目標	1 教育に関する目標	1 教育に関する目標	
<p>(1) 教育の質保証・向上に関する目標</p> <p>①地域で活躍できる人材育成の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育プログラムを充実 ・地域を理解し課題発見・課題解決力を備えた「変革力」のある人材の育成 <p>②国際通用性のある教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム、授業方法、成績評価等の見直し ・国際的に通用する教育を実施 <p>③大学院教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程教育とのつながりを維持 ・大学院教育の独自性を明確化 ・広い視野をもった研究者や高度専門職業人を養成 <p>④多様な人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力や意欲、適性など多様な尺度で評価できる入学者選抜を実施 ・優秀な学生を確保するための取組の充実 <p>⑤教育能力の向上および教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を活発化 ・教育活動を多面的に評価し、教育の質向上に反映 ・ICTなども活用し、学生が能動的に学ぶ学習環境を整備 	<p>①社会の要請に応じた学びの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学部・研究科を活かした文理横断的なカリキュラム編成 ・学部・学科の再編、入学定員など教育研究組織のあり方を検討 <p>②実践的な教養教育等の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育をより実践的な内容に見直し ・ICTやデータ活用等の情報教育の強化など、教育プログラムを拡充 <p>③地域に貢献できる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育プログラムや「近江楽座」の取組を推進 ・地域資源の発掘や地域課題の解決能力を育成 <p>④大学院教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者としての幅広い素養を修得 ・産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成 <p>⑤効果的な入学者選抜等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生等に対して効果的な情報発信 ・能力を多面的・総合的に評価できる入学者選抜を実施 ・目的意識や学習意欲の高い学生の受入れを促進 <p>⑥教育DXの推進と教育能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育DXにより学生が能動的に学べる仕組みを整備 ・授業等におけるICT環境の活用を推進 ・FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を通じた教員の教育能力の向上 	<p>①教育研究組織のあり方の検討等</p> <p>持続可能な社会づくり等の観点から、これからの時代に必要な力を身につける学びを提供できるよう、多様な学部・研究科を活かした文理横断的なカリキュラム編成や学部・学科の再編、入学定員など教育研究組織のあり方を検討する。</p> <p>②教養教育等の充実</p> <p>多様化する価値観に対応できるよう、文理横断の幅広い教養教育を充実するとともに、ICT・データ活用等の情報教育を強化するなど、教育プログラムを拡充する。</p> <p>③地域に貢献できる人材の育成</p> <p>地域教育プログラムや学生主体の地域活動である「近江楽座」の取組を推進し、地域資源の発掘や地域課題の解決能力を育成する。</p> <p>④大学院教育の充実</p> <p>研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。</p> <p>⑤効果的な入学者選抜等の実施</p> <p>受験生等に対して効果的な情報発信を図るとともに、能力を多面的・総合的に評価できる入学者選抜を実施し、目的意識や学習意欲の高い学生の受入れを促進する。</p> <p>⑥教育DXの推進と教育能力の向上</p> <p>教育DXにより学生が能動的に学べる仕組みを整え、授業等におけるICT環境の活用を推進するとともに、FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を通じて教員の教育能力の向上を図る。</p> <p>⑦教学マネジメント体制の強化</p> <p>教育の質の保証・向上のための教学マネジメント体制を構築し、学修者本位の観点による組織的なチェック体制を強化する。</p>	<p>社会環境の大きな変化に対応し、教育内容や組織等の抜本的な改革に着手 ※目標内容の明確化</p> <p>社会で必要とされるICTやデータ活用等の能力を育成 ※目標内容の具体化</p> <p>教学マネジメントをはじめとする全学レベルでの組織的なチェック体制を充実 ※「自己評価等」の項目から移動</p>

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期（素案）の違いなど ※は第4期骨子案との違い
<p>(2) 学生への支援に関する目標</p> <p>① 学生への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様性をもつ個々の学生に対応した切れ目のない学修支援、生活支援 <p>② 就職・キャリア形成支援等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が希望する進路の実現に向けた支援体制の強化 ライフステージに応じたキャリア形成支援や健康教育等を実施 <p>③ 留学支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の留学に対する支援の拡充 海外からの留学生を受け入れるための環境を整備 	<p>⑦ 国際交流等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の海外派遣や留学生の受け入れを推進 ICT環境等も積極的に活用した国際交流等 国際感覚を持った人材を養成 <p>⑧ 学生への支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様性をもつ個々の学生に対応した学修支援、生活支援体制を充実 <p>⑨ 就職・キャリア形成支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の目指す進路の実現に向けたキャリア形成支援に早期から取組 県内企業等への関心を高め、就職促進につながる取組を推進 	<p>⑧ 国際交流等の推進</p> <p>学生の海外派遣や留学生の受け入れを推進するとともに、ICT環境等も積極的に活用しながら国際交流等を図り、国際感覚を持った人材を養成する。</p> <p>⑨ 学生への支援体制の充実</p> <p>多様性をもつ個々の学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、社会環境等の変化を踏まえ、学修支援、生活支援体制を充実する。</p> <p>⑩ 就職・キャリア形成支援の推進</p> <p>学生の目指す進路の実現に向けたキャリア形成支援に早期から取り組むとともに、県内企業等への関心を高めるなど、就職促進につながる取組を推進する。</p>	<p>留学支援だけでなく、国際交流等の推進全般に関して追記</p>
<p>2 研究に関する目標</p>	<p>2 研究に関する目標</p>	<p>2 研究に関する目標</p>	
<p>(1) 研究水準および研究の成果等に関する目標</p> <p>① 特色ある研究拠点の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 独自性のある研究拠点を構築 県立大学の強みや特色を活かした戦略的研究テーマの設定と重点的な取組 <p>② 研究水準の検証・向上と研究成果の還元</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究分野および内容を検証し改善 研究成果を地域や国内外へ発信し、社会へ還元 <p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p> <p>① 研究実施体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究推進に必要な資源を確保し研究基盤を強化 研究者の育成・支援 <p>② 他の機関と連携した研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の大学や試験研究機関等との連携を充実・強化 	<p>① 特色ある研究の推進と研究水準の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ひと・モノ・未来情報研究センターを中心に学部・学科間の連携を推進 県立大学の強みや特色を活かした研究の取組 研究水準の向上 <p>② 研究成果の還元</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の課題や要請に応える研究を展開 自治体等と連携した地域活性化や地域課題の解決を推進 研究成果の社会への還元 <p>③ 研究実施体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手・女性研究者等の育成 研究倫理の徹底など、適正な研究活動に向けた体制を充実 	<p>① 特色ある研究の推進と研究水準の向上</p> <p>地域ひと・モノ・未来情報研究センターを中心に学部・学科間の連携を推進し、県立大学の強みや特色を活かした研究に取り組むとともに、研究水準の向上を図る。</p> <p>② 研究成果の還元</p> <p>地域社会の課題や要請に応える研究を展開し、自治体等と連携した地域活性化や地域課題の解決を推進するなど、研究成果の社会への還元を図る。</p> <p>③ 研究実施体制の強化</p> <p>研究者の多様性を高めるため、若手・女性研究者等の育成を図るとともに、研究倫理の徹底など、適正な研究活動に向けた体制を充実する。</p>	<p>地域ひと・モノ・未来情報研究センターを中心に取組を推進</p> <p>自治体等との連携に関して追記</p> <p>若手・女性研究者等の育成、研究倫理の徹底に関して追記</p> <p>地域連携「①産学官連携の強化」の項目に移動</p>

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期(素案)の違いなど ※は第4期骨子案との違い
<p>3 地域貢献に関する目標</p> <p>(1) 地域社会等との連携に関する目標</p> <p>① 地域社会等との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究や地域活動を通じて地域の様々な主体との連携を強化 地域が抱える課題の解決につながる取組を推進 <p>(2) 産学官連携の推進に関する目標</p> <p>① 産学官連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の企業等との連携を強化 社会情勢の変革にも対応した産学官共同研究を推進 <p>(3) 生涯教育の推進に関する目標</p> <p>① 生涯教育プログラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層の学習意欲に対応した教育を推進 地域での自立的な活動等につながる生涯教育プログラムの開発 <p>② 生涯教育実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の多様な人々が学べる生涯教育拠点としての体制を整備 社会人やアクティブシニアなどを積極的に受け入れ 	<p>3 地域連携に関する目標</p> <p>① 産学官連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界、他大学、自治体等との連携を強化 共同研究や寄附講座の開講等を推進 地域の産業界等をリードしながら、地域経済・社会を支えるイノベーションの創出を目指す <p>② 学生による地域活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「近江楽座」等に関する情報発信を強化 OB・OGとの連携などにより、学生による地域活動を活性化 <p>③ 地域づくりやSDGs等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域づくりや地域課題解決の中核となる人材を育成 SDGsやMLGsに関わる取組を推進 <p>④ 社会人教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> リカレント教育を充実 企業等と連携したリスクキリング制度を展開 社会人の多様なニーズに対応した教育機会を提供 	<p>3 地域連携に関する目標</p> <p>① 産学官連携の強化</p> <p>産業界、他大学、自治体等との連携を強化し、共同研究や寄附講座の開講等を推進するとともに、地域の産業界等をリードしながら、地域経済・社会を支えるイノベーションの創出を目指す。</p> <p>② 学生による地域活動の活性化</p> <p>「近江楽座」等に関する情報発信を強化し、OB・OGとの連携を図ることなどで、学生による地域活動を活性化する。</p> <p>③ 地域づくりやSDGs等の推進</p> <p>地域づくりや地域課題解決の中核となる人材の育成を図るとともに、SDGsやMLGsに関わる取組を推進する。</p> <p>④ 社会人教育の充実</p> <p>リカレント教育を充実し、企業等と連携したリスクキリング制度を展開するなど、社会人の多様なニーズに対応した教育機会を提供する。</p>	<p>寄附講座の開講、イノベーションの創出に関して追記</p> <p>県立大学の強みである「近江楽座」等の取組をさらに活性化</p> <p>地域づくりやSDGs等の推進に関して、県立大学が果たすべき役割を明示</p> <p>産学官の連携による実践的な社会人教育を展開</p>
<p>4 県立大学のブランド力の向上に関する目標</p> <p>(1) 広報活動の推進に関する目標</p> <p>① 社会に対する広報の効果的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動や研究成果などの取組を力強く発信 報道機関への適時適切な情報提供 積極的な情報公開を推進 <p>② 戦略的な入試広報の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外の媒体を効果的に活用 受験生やその保護者、高等学校の教員等が求める情報の発信を強化 <p>(2) 広報推進体制の強化等に関する目標</p> <p>① 広報推進体制の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の理念等を共有するためのUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)活動を推進 教職員の情報発信意識の向上 全学的な広報推進体制を強化 			<p>ステークホルダーとの共創「①広報・情報発信」の項目に移動</p> <p>教育「⑤効果的な入学者選抜等の実施」の項目に移動</p> <p>第4期は個別の目標でなく、大学運営全般の中で取組を推進</p>

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期（素案）の違いなど ※は第4期骨子案との違い
	II 高等専門学校への設置に向けた目標	II 県立高等専門学校の設置に向けた目標	
	<p>①多様な学びにつながるカリキュラム等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報技術を基盤として、専門分野の多様な学びにつながる柔軟なカリキュラム編成等を検討 多様な学びを実現するための教職員の確保 <p>②教育環境や施設等の整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な学修形態やダイバーシティ等に対応できる教育環境の整備 社会教育や民間教育を含む地域の拠点としての機能も兼ね備えた施設等の整備や活用方策の検討 <p>③高等専門学校の設置に向けた情報発信等</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等専門学校の設置のねらいや学びの特色等を積極的に発信 県内外から幅広い志願者の獲得につなげる手法を検討 <p>④産業界や地域との連携等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界との「共創」を具体化する議論や取組を推進 地域の活性化や課題解決、新たな産業の創出に向けた連携等の仕組みを検討 	<p>①多様な学びにつながるカリキュラムの検討等</p> <p>滋賀発で次代の社会を支える高等専門人材の育成に向け、情報技術を基盤とした専門分野の多様な学びにつなげ、これからの滋賀や社会を支える価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む力を育む柔軟なカリキュラム編成を検討し、必要な教職員を確保する。</p> <p>②教育環境や施設等の整備の推進</p> <p>様々な学修形態やダイバーシティに対応できる教育環境のほか、リスキングなどの社会人教育や地域教育活動の場としても活用できる施設等の整備や活用方策を検討する。</p> <p>③積極的な情報発信等</p> <p>技術者育成・交流のハブとして機能するよう、また、県内外から多くの子どもたちに進路として選択してもらえるよう、早い段階から設置のねらいや学びの特色等の積極的な情報発信を行う。</p> <p>④産業界や地域との連携等の検討</p> <p>産業界等との議論を進め、設立運営にあたっての支援、地域の活性化、新たな産業の創出につながる連携など、「共創」の仕組みを検討する。</p>	<p>高等専門学校の設置に向けた準備等を推進 ※目標内容の具体化</p> <p>同上</p> <p>同上 ※「積極的な」の表記を追記</p> <p>同上</p>
II 大学経営の改善に関する目標	III 法人経営に関する目標	III 法人経営に関する目標	
1 業務運営の改善に関する目標	1 業務運営の改善に関する目標	1 業務運営の改善に関する目標	
<p>(1) 組織運営の改善等に関する目標</p> <p>①組織の見直し・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に対応した柔軟な教育研究組織の編成の見直し・改善 教育研究活動の活性化や支援体制の充実 大学間連携の推進 <p>②人権意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ハラスメントや人権侵害を防止 人権研修等を通じた学生や教職員の人権意識の向上 <p>③働き方改革等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革や女性活躍の積極的な取組 男女共同参画を総合的に推進 	<p>①効果的・効率的な組織体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等専門学校の設置に向けた法人組織の見直し 教職協働のもと、大学と高等専門学校を効果的・効率的に運営できる組織体制を整備 <p>②大学間連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学間連携を推進 県内の多彩な大学等の強みを共有 人的・物的資源を有効活用できる仕組みを検討 <p>③働き方改革とダイバーシティの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革やハラスメント防止の取組 教職員が働きやすい環境を整備 ダイバーシティの観点から、男女共同参画やワークライフバランス等を推進 	<p>①複数高等教育機関の設置者として必要となる組織体制の整備</p> <p>県立高等専門学校の設置に向け、法人組織の見直しを図るとともに、教職協働のもと、県立大学と県立高等専門学校を効果的・効率的に運営できる組織体制を整備する。</p> <p>②働き方改革とダイバーシティの推進</p> <p>働き方改革やハラスメント防止に取り組み、教職員が働きやすい環境を整備するとともに、ダイバーシティの観点から、男女共同参画やワークライフバランス等を推進する。</p>	<p>県立高等専門学校の設置に向けた準備等を推進 ※目標内容の明確化</p> <p>※「ステークホルダーとの共創」の項目に移動</p>

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期(素案)の違いなど ※は第4期骨子案との違い
<p>(2) 人事制度の改善等に関する目標</p> <p>①人事制度の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な定員管理のもと優秀な教職員を確保 教職員の評価制度を整備し、公正かつ適正な処遇 <p>②教職員の資質・能力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質向上と能力開発を総合的に推進 教職協働を一層推進 	<p>④教職員の評価・能力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の実績と能力を評価し、公正かつ適正な処遇を実施 計画的な採用や人材育成による能力向上 	<p>③教職員の評価・能力向上</p> <p>教職員の実績と能力を評価し、公正かつ適正な処遇を行うとともに、計画的な採用や人材育成により能力向上を図る。</p>	<p>骨子案④(素案③)に統合</p>
<p>2 財務に関する目標</p>	<p>2 財務に関する目標</p>	<p>2 財務に関する目標</p>	
<p>(1) 財政基盤の強化等に関する目標</p> <p>①財政基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来にわたって持続的、発展的に経営できる財政基盤の強化 寄附を含めた外部資金の積極的な獲得 <p>②財源配分の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> コスト意識を持ち合理化、効率化を推進 長期的な展望に基づく重点的、戦略的な資金配分 <p>(2) 施設設備等の整備・活用に関する目標</p> <p>①施設設備等の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学施設の長寿命化やライフサイクルコストの低減 環境負荷の低減やユニバーサルデザイン化に対応 施設設備の計画的な更新・改修を実施 大学資産の効果的、効率的な活用 	<p>①財政基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金や寄附金等を積極的かつ安定的に獲得 収支バランスの見直し 将来にわたって持続可能な財政基盤を強化 <p>②施設設備等の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育研究備品やネットワーク環境の計画的な更新等 学生等の修学・研究環境を充実 施設等の有効活用、長寿命化やユニバーサルデザイン化、環境負荷の低減を推進 	<p>①財政基盤の強化</p> <p>外部研究資金や寄附金等を積極的かつ安定的に獲得するとともに、収支バランスの見直しを図り、将来にわたって持続可能な財政基盤を強化する。</p> <p>②施設設備等の整備・活用</p> <p>教育研究備品やネットワーク環境の更新等を計画的に行い、学生等の修学・研究環境を充実するとともに、施設等の有効活用を図りつつ、長寿命化やユニバーサルデザイン化、環境負荷の低減を推進する。</p>	<p>①に統合</p>
		<p>3 ステークホルダーとの共創に関する目標</p>	
		<p>①強みを活かした広報・情報発信</p> <p>強みや特色などを活かした訴求力の高い広報活動を展開するとともに、ステークホルダー等に対して適時適切な情報発信を行う。</p> <p>②大学間連携の推進</p> <p>大学間連携を推進し、県内の多彩な大学等の強みを共有しながら、人的・物的資源を有効活用できる仕組みを検討する。</p>	<p>ブランド力「①広報」の項目から移動 ※自己評価等「②学内外の知見やデータの活用と情報発信」の項目から移動し、取組を強化</p> <p>滋賀大学をはじめとする県内他大学等との連携の仕組みを検討 ※「業務運営の改善」②の項目から移動</p>

第3期中期目標の構成	第4期中期目標（骨子案） ※R5.3.7常任委員会で報告	第4期中期目標（素案）	第3期と第4期（素案）の違いなど ※は第4期骨子案との違い
<p>3 自己評価等に関する目標</p> <p>(1) 自己点検・評価の実施等に関する目標</p> <p>① 自己点検・評価の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を着実に実施し、その結果を公表 自己点検・評価、認証評価、法人評価等の結果を大学運営の改善に活用 <p>② データに基づく大学運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外のデータを収集・分析 分析結果に基づく効果的、戦略的な大学運営を推進 	<p>3 自己評価等に関する目標</p> <p>① 自己点検・評価の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を着実に実施 指標等を用いて中期計画の進行状況を可視化 認証評価等の結果も含め、法人経営の改善に活用 <p>② 学内外の知見やデータの活用と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外の知見やデータを法人経営に積極的に活用 <p>・ステークホルダー等に対する情報発信を推進</p> <p>③ 内部質保証体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の質の保証・向上のための教学マネジメント体制を構築 学修者本位の観点による組織的なチェック体制を強化 	<p>4 自己評価等に関する目標</p> <p>① 自己点検・評価の実施等</p> <p>自己点検・評価を着実に実施し、指標等を用いて中期計画の進行状況を可視化するとともに、認証評価等の結果も含め、業務運営等の改善に活用する。</p> <p>② 学内外の知見やデータ等の活用</p> <p>学内外の知見やデータ等を積極的に活用し、効果的・戦略的な法人経営を推進する。</p>	<p>指標等を用いた中期計画の進行管理に関して追記 ※「業務運営等」の表記に変更</p> <p>※ステークホルダー「①広報・情報発信」の項目に移動</p> <p>※「教育」の項目に移動</p>
<p>4 その他の業務運営に関する目標</p> <p>(1) 法令遵守に基づく大学運営の推進に関する目標</p> <p>① 法令遵守に基づく大学運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のコンプライアンス意識の徹底 法令遵守に基づく大学運営を推進 <p>(2) 安全管理体制の充実等に関する目標</p> <p>① 安全管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全管理および危機管理体制を強化 <p>② 情報管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護を徹底 情報セキュリティ体制の強化 <p>(3) 監査機能の充実に関する目標</p> <p>① 監査機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 監事、会計監査人、内部監査組織相互間の連携の強化 	<p>4 その他の業務運営に関する目標</p> <p>① 法令遵守に基づく業務運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のコンプライアンスや人権意識の徹底 研究不正の防止 法令遵守に基づく業務運営を推進 <p>② 安全管理体制等の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全管理や情報セキュリティ対策の充実 大規模災害や新興感染症の発生等に備えた危機管理体制を強化 <p>③ 監査機能の実効性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 監事、会計監査人、内部監査組織の連携を強化 監査機能の実効性の確保 	<p>5 その他の業務運営に関する目標</p> <p>① 法令遵守に基づく業務運営の推進</p> <p>教職員のコンプライアンスや人権意識の徹底を図るとともに、研究不正の防止など、法令遵守に基づく業務運営を推進する。</p> <p>② 安全管理体制等の強化</p> <p>安全管理や情報セキュリティ対策の充実を図るとともに、大規模災害や新興感染症の発生等に備えた危機管理体制を強化する。</p> <p>③ 監査機能の実効性確保</p> <p>監事、会計監査人、内部監査組織の連携を強化し、監査機能の実効性の確保を図る。</p>	<p>研究不正の防止に関して追記</p> <p>大規模災害や新興感染症等への備えに関して追記</p> <p>②に統合</p>